

## 絶望の隣は希望です！

今月は「アンパンマン」の作者、やなせたかしさんのお話しを紹介させていただきます。やなせさんは未熟児として生まれ、5歳でお父様と死別されたそうです。小さなころから劣等感にさいなまれ、小学校で自殺しようと思った事もあったそうです。大きくなり兵隊にとられ、中国の戦地にわたった時も二度と故郷の土を踏めないだろうと思われたそうです。ところが運よく戻る事ができ「今日一日も生きられたから、何とか明日も生きてみよう」と過ごされたそうです。そんな生き方の中から「アンパンマン」が誕生しました。

ではやなせさんのお話しです。

バイキンは食品の敵ではあるけれど、アンパンをつくるパンだって菌がないとつukれない。

助けられている面もあるのです。つまり、敵だけど味方、味方だけど敵。

善と悪とはいつだって、戦いながら共生しているということです。

ばいきんまんの登場によってアンパンマンに、もうひとつのメッセージが生まれた。「共生」だ。バイキンは食べ物の敵ではあるけれど、実は、パンだって酵母菌がないとつukれない。バイキンも、食べ物がないと繁殖できない。つまり、パンとバイキンは、敵だけど味方、味方だけど敵という共生関係にあるわけだ。

これは、われわれ人間にも言える。バイキンが絶滅すればいいのかというと、実はダメなのだ。人間も生きられなくなる。

人の体内にはおびただしい数のバイキンが生きている。健康な人は、バイキンと戦いながら、両方が拮抗して、ある種のバランスを保って生きている。

一度戦った細菌やウイルスに対して免疫ができる場合もある。だが、これで安心かというそうではなく、次から次へと新型ウイルスが出現し、人は永遠にそれらと戦っていくことになる。

そうした戦いをせずに、ウイルスや菌と共生する知恵、それがワクチンだ。こうして敵対するものとも共生していく。それが人間の知恵のすばらしさなのである。

いかがでしたか、世界に目を向けるとコロナ感染の問題、ロシアのウクライナ侵略など、身近では園での子どもたちの「ぶつかりあい」です。やなせさんの言われる「共生」こそが、みんなが平和で安心して暮らしていく人間の「知恵」ではないでしょうか。園

ではお子様におぶつかりあいを通し、共に園生活を送る、そんな「共生」の気持ちを育んでいます。「**絶望の隣は希望です!**」を忘れずに、保護者の皆様も苦しい時はそうつぶやいて生きてみて下さい。

理事長